慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	尊経閣文庫所蔵『外記補任』の補訂再考：八・九世紀分について
Sub Title	The supplementary correction on Gekibunin (『外記補任』) (V)
Author	中野, 高行(Nakano, Takayuki)
Publisher	三田史学会
Publication year	1987
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.57, No.2 (1987. 9) ,p.159(327)- 163(331)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19870900-0159

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

尊経閣文庫所蔵『外記補任』の補訂再考

――八・九世紀分について――

中野高行

旧稿「尊経閣文庫所蔵『外記補任』の補訂」[1]については、史料翻刻という性格上、誤読・誤植・脱字などの訂正が必要と思われる。また、改めるべき私見や加えるべき新知見もこの際一括して発表することにする。なお、本稿作成にあたり多くの先生方・諸学兄からの貴重な御教示を参照させていただいた。本文中で御芳名を挙げて御礼のかわりとしたい。

ただし、本稿の内容は中野が検討を加えて是としたもののみであり、その惹起する所の責任が全て中野に帰することを念のため明記しておく。

一　尊経閣文庫所蔵解説の筆者について

『外記補任』に関する尊経閣文庫所蔵の解説（以下「解説」と略記する）の筆者を旧稿では不詳とした。[2]しかし、旧稿発表後、太田晶二郎先生より次のような御教示をいただいた。以下要約して引用させていただく。

解説には三種のものが寄せ集められている。一つは、書名共四行の簡略なもので、永山近彰（号は柳下）執筆。次は、前者とは別の二葉三十二行のやや詳しい解題で、大野木克豊[3]の執筆。最後は、一紙二十行のもので紙数・錯簡・脱落の有無を調査したもので白石正邦[4]の執筆。

検討の結果、旧稿で引用した解説は大野木克豊執筆分と判明した。

二　秋篠安人の大外記補任の時期について

旧稿では、延暦年間初期における秋篠安人の経歴が諸史料で混乱していることを指摘し、『二中歴』の延暦三年六月大外記補任説を採用した。しかし、『外記補任』と『公卿補任』に対する史料批判に比して、『二中歴』に対する検討は十分とは言えなかった。『外記補任』の六年三月補任説が妥当なのではないかという御指摘を渡辺晃宏氏よりいただいたので、再検討してみたい。表1は、安人の官歴に関する諸史料を整理したものである。

表1から判明することを、以下列挙する。①『続日本紀』の在任記事から、『二中歴』異本の説は成立しない。②『続日本紀』の在任記事から、『公卿補任』本文の大内記補任記事は疑わしい。

以上から、秋篠安人の大外記補任の時期については、Ⓐ延暦六年三月とする説（『外記補任』・『公卿補任』異本）と、Ⓑ同三年六月とする説（『二中歴』本文）の二説が残る。しかし、Ⓐ説が複数の史料に見えるうえ、Ⓑ説の三年六月がⒶ説の六年三月の年と月をとりちがえたものと考えることもできることから、Ⓐ説を採用する方が穏当と思われる。それゆえ、安人の大外記補任については、Ⓐ説により延暦六年三月とし、旧稿の復元部分を訂正することとする。

表1

延暦	10年	9年	8年		6年	3年
外記補任					3月 大外記	
公卿補任				3月 大外記	3月 大内記	2月 少内記
二中歴	2月 大外記				6月 大外記	
続日本紀	2月 大外記	3月 大外記	9月 大外記			

注　□は補任。⬚は異本における補任。〰は在任をそれぞれしめす。

三　誤読・誤植・脱字の訂正

旧稿発表後、飯田瑞穂先生より四九ヵ所について御教示を頂戴した。嵐義人先生・渡辺晃宏氏からの御指摘と中野の気付いた点を含め、以下列挙する。

凡例

㈠場所は「頁数―行数」の形で示した。行数の前の△は、「後ろから数えて」の意味。㈡行数は本文の行数を示す。行数の下の諸記号は、それぞれつぎのような意味を表わす。

W＝割注　B＝傍注　T＝頭注

㈢訂正した部分が、『続群書類従』第四揖上所収『外記補任』の記載と異なる場合には、その文字の左傍に。を付した。底本に明らかな誤まりのある場合には左傍に•を付し、脱漏は□で補った。他は旧稿の凡例を参照。

〔第五五巻第四号（Ⅰ）〕

場所	誤	正
一〇九―七	請局務	申請局務。
同　右	書写也	書写之。
一〇九―八	校之	校了。
一一三―十二	筆者不詳	大野木克豊執筆
一一三―△一	菊池	菊地
一二〇―△五	堅部	堅部
一二一―△一W	〔二中〕	削除
一二二―四W	〔二中〕	削除
同　右	大外記、秋△	少外記、秋
一二二―七	大外記	少外記
一二二―十	大外記	少外記
一二二―△六	秋篠	秋篠△
一二二―△四B	カタノィ	カタノ。(5)歟

〔第五六巻第一号（Ⅱ）〕

七〇―△九W	＊3	月日叙位
七〇―△七W	祐	佑。×
七〇―△三	内×	内蔵
七一―八W	巳	巳 外。
七一―△七	上毛野	上毛野
七一―△四W	與	与。
七二―一W	相模	相摸
七三―△八W	宿称	宿祢
七三―△二T	内記例」	内記任例」
七四―△三	五	五。
七七―△八W	斎衡	斉衡
七八―三	外従五	外正五
七八―四W	斎衡	斉衡
七八―△七W	宿称	宿祢
八一―七W	三月	二月
八一―△六W	宿称	宿祢

八一—△四W	正月入内	正月廿日入内	
八二—六W	承和七年正	承和七正	
八二—△八	山代	山田〔代〕●	
八二—△二W	十一日	十二日○	
八四—△四W	止職	止職○	
八四—△三	御○室	御○室〔○×〕	
八四—△三W	＊12	削除	
八四—△二	山○田	山田	
八四—△一B	門イ	門歟	
〔第五六巻第二号（Ⅲ）〕			
一一八—四B	ロイ	ロ歟○	
一一八—九B	ロイ	ロ歟○	
一一八—△一	斎衡	斉衡	
一一九—六	斎衡	斉衡	
一一九—十一	斎衡	斉衡	
一二〇—一W	斎衡	斉衡	
一二〇—五W	斎衡	斉衡	
一二一—△三	善良	善長	
一二二—△三W	轉	任	
一二四—△五W	信濃	信乃○	
一二六—三W	正廿二日	正廿○六○	
一二六—七W	正月　日	正月七日○	
一二九—△六W	土佐	土左	
一三〇—十W	土佐	土左	
一三二—六W	豫	与○	
一三二—△七W	豫	与○	
一三二—△二W	豫	与○	
一三四—四T	少輔	少○甫	
一三五—三B	遠江守〕	遠江守○」	
一三五—六W	参河	参川	
一三五—八W	迁	任	
〔第五六巻第三号（Ⅳ）〕			
九五—△四	九月	五月	
同　右	少外記	少内記	
九六—九	＊3	全文削除	
九六—△三	（誤）により「五」を補ったが、割注では（正）には「五脱歟」とあるが、底本には「五」とある。割注では		
九八—二W	不、□	不、○トモ読メル	
九八—八	斎衡	斉衡	
九八—九	斎衡	斉衡	
九九—三	斎衡	斉衡	

九九—△四W	和泉	和泉守	
九九—△二	轉	任	
一〇〇—一B	叙イ	叙歟。	
一〇二—三	斎衡	斉衡	
一〇四—三	1・75	1・43	
一〇四—八	21・28	19・15	
一〇四—九	最大4日	最大3日	
一〇四—表5	36（76・59%）	37（78・72%）	
同　右	10（21・28%）	9（19・15%）	
同　右	8（17・02%）	7（14・89%）	
一〇四—表7	同十四年	この条削除	
一〇八—〔訂正〕	「堅部」を「堅部」に改めたのは、底本で「堅部」とあったのを「堅部」に誤植したものの訂正である。記述が意を尽くしていなかった点を、森田悌先生・小口雅史氏より御指摘いただいた。		

註

（1）『史学』第五五巻第四号に（Ⅰ）〈昭和六十一年五月〉、『同』第五六巻第一号に（Ⅱ）〈同七月〉、『同』第五六巻第二号に（Ⅲ）〈同九月〉、『同』第五六巻第三号に（Ⅳ）〈同十一月〉をそれぞれ発表。

（2）旧稿（Ⅰ）一一三頁註（4）。

（3）太田先生によれば、大野木克豊は旧制高校教授より学習院教授に至る。国文学、特に和歌専攻。

（4）太田先生によれば、東京帝国大学国史学科卒業、昭和初年に東京府立第三高等女学校校長。

（5）底本では「ん」に近い字で、歟の略字と思われる。以下同じ。

（昭和六十二年正月十九日成稿）

〔付記〕

本稿投稿後、太田晶二郎先生の訃報に接しました。心より哀悼の意を表します。